

「企業・団体向け 日本の工芸レクチャープログラム」は、国立工芸館と国立アートリサーチセンターの共同企画による、企業・団体を対象とした国立美術館独自のアートプログラムです。いま世界から注目を集める日本の工芸。本プログラムでは、近現代の工芸・デザインを専門とする国内唯一の国立美術館、国立工芸館の研究員(学芸員)が、基礎知識から社会との接点、さらには工芸作家(アーティスト)の創造的思考や卓越した芸術表現について詳しく解説します。あわせて、開催中の展覧会を研究員の解説とともに鑑賞いただけます。日本の工芸を接続点として、アートともものづくりに新たな視点を発見する本プログラムは、社員研修や顧客向けイベント、金沢へのエクスカージョン(体験型旅行)など、幅広くご活用いただけます。



[実施概要]

日本の工芸を知ることは、日本の社会を知ることにつながります。人びとがグローバルに交流することが当たり前となるなか、日本を代表するアートである工芸を知る機会を設けることで、改めて日本文化を学び直すきっかけを提供します。本プログラムでは、研究員(学芸員)のレクチャーに加え、開催中の展覧会で実際に工芸作品を鑑賞する時間を設けます。解説をもとに、工芸作家(アーティスト)の持つ豊かな技術力や芸術性に触れることは、多様な視点や新たな発見・思考を見いだす機会となるでしょう。金沢の地へのご訪問と組み合わせ、工芸の世界をひらいていただけるプログラムです。

所要時間 | 約3時間

実施場所 | 国立工芸館 多目的室等
(石川県金沢市出羽町3-2)

参加者数 | 最大30名まで

[プログラム内容(一例)]

● **イントロダクション**



● **レクチャー**



- | | |
|--------------------------|------|
| (1) 国立工芸館の紹介とそのミッションについて | 約15分 |
| (2) 工芸の基礎ともものづくりのこころ | 約60分 |
| (3) 展示解説(開催中の展覧会解説) | 約30分 |
- 休館日での実施の場合は、展示室にてギャラリートーク
開館日での実施の場合は、多目的室にて展示解説

● **自由観覧**



● **クロージング**

※別途休憩時間を含め、所要時間は上記内容で約3時間を予定しています。
※レクチャー(1)~(3)以外の時間配分は調整可能です。

[お問合せ]

国立アートリサーチセンターのウェブサイトからお問合せください。
<https://ncar.artmuseums.go.jp/>



国立工芸館 (National Crafts Museum) について

石川県金沢市に移転開館した近現代工芸・デザイン専門の国立美術館。陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなどの各分野にわたって、総数約4,000点を収蔵している。明治後期の洋風建築は国登録有形文化財の旧陸軍施設を移築・復元したもので、近代の歴史を伝えている。
所在地: 〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2 <https://www.momat.go.jp/craft-museum/>



実施事例

実際に本プログラムを実施いただいた企業・団体の方々の声をご紹介します。
研修の一環として取り入れていただいた、
NTTドコモソリューションズ株式会社の事務局担当者様に伺いました。

● 企業担当者の声

① プログラム実施の背景・目的

—— 実施に至った背景

今回はグループの研修の一環として、NTTグループ各社より11名が本プログラムに参加しました。

私たちは今、かつてないほどの変化の時代を生きています。テクノロジーの進化、働き方の多様化、社会課題の複雑化——これらは、私たちの意思決定や協働のあり方に大きな影響を与えています。さらに先進国では、人口減少・高齢化・価値観の多様化が進み、成熟社会へと移行しています。物質的な豊かさがある一方で、課題はより複雑化し、正解のない問いに向き合う力が求められています。こうした時代においてビジネスを行うには、単なる効率や成果だけでなく、人間らしさ・関係性・創造性を重視したアプローチが不可欠です。経営環境が大きく変化する中、NTTグループにおいても企業価値向上をめざし、幅広い視野と経験を有し、世の中をリードできる経営人材を輩出する必要があると考えています。

一方で、これまでの私たちの企業文化には「慎重であることが美德」という面が強く根付いています。どうしても石橋を叩き過ぎる傾向があり、結果として新しい挑戦や創造性から遠ざかってしまう。こうした殻を破るため、アートシンキングをテーマに「0からアイデアを生み出す力」に触れ、柔らかな発想で新しいビジネスモデルを描くための気づきを得たいと考えました。

—— 工芸に注目した理由

工芸は、伝統と革新が常に共存している世界です。長い歴史の中で技術が成熟し、受け継がれながらも、その技法を使って常に新しい表現が生み出されています。まさに「守る」と「創る」が同時に存在する領域と言えます。また、日本のものづくりに触れることで、日本らしさを考える機会となり、ビジネスに活かせる発想力を学べるのではないかと考えました。

② 実施後のご意見・感想

—— 参加者の反応

非常に好評でした。アート思考とビジネス・ITにおいて、プロフェッショナルとしての思考の共通点を感じられたという声や、日本の工芸・アート全般に対する興味・関心が高まったという声が多く聞かれました。

また、日ごろは机に向かってビジネスやITのことばかりを考えてしまいがちですが、実際に足を運び、伝統工芸品に触れることで、凝り固まった価値観を取り払い、まっさらな気持ちで作品やその価値を感じることができたという声がありました。さらに、工芸の「美と機能」を活かした次世代UI/UXを目指すことで、日本らしいITのあり方を追求できるのではないかと考える機会になった、という意見も挙がりました。

—— 感想・印象に残ったこと

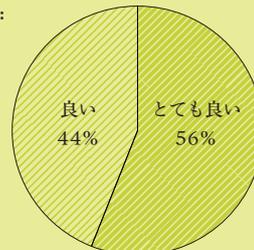
ビジネスの世界においては欧米の潮流に乗ることが多い一方で、日本的な伝統文化をビジネスに取り入れていくことで、グローバルにおける日本の立ち位置を確立する要因になり得るのではないかと、その可能性を感じています。この「伝統×創造」の現場に触れることこそ、私たちが目指す思考転換につながると考えています。国立工芸館では、工芸の基礎知識や同館所蔵作品についてレクチャーをいただいた後、実際に伝統工芸品(展示作品)を拝見することで、日本のものづくりの原点や、今後も大切にすべき価値を強く実感することができました。

● 参加者の声

企業・団体向け

日本の工芸レクチャープログラム参加者アンケート

全体満足度:



体験後に感じた変化:

日本の工芸に対する興味・関心が高まった／アート全般に対する興味・関心が高まった／美術館の活動に興味を湧いた・美術館に行きたくなくなった／自身の仕事や業務の中で活かせるような気づき・学びが得られた……など

コメント:

▶ これまで個人的に博物館や美術館を訪れて作品を鑑賞してきたが、単に作品を見るに留まっており、美術品や工芸品の持つ価値を、国内外への発信も含め、広く世の中に広めていく国としての営みについてはほぼ知らなかった。工芸館の取組みも含め、さまざまな取組みを紹介いただいたことで、今後の博物館や美術館を訪れる際の見方も大きく変わってくると思う。

▶ 工芸という言葉は知っていたものの、深くは知らなかった。工芸という言葉や定義の背景や意義、日本人の持つものづくりの美意識について感じる事ができ、素晴らしいプログラムであると思う。

▶ もともと工芸には興味を持っていたが、今回講義いただいた内容は体系的に整理されており、初めて聞く内容もすっと理解できるものであった。「伝統工芸は日本のものづくりの原点である」ということをあらためて認識できたとともに、ビジネスの世界で生きている我々にとっても、今後の会社経営への活用に大いに刺激を受けた。この1年、さまざまな講義や講演を聞いてきたが、一番心に残る話であった。

▶ 作品の背景や意味を教えていただくことで、理解がより深まるということも、今回の解説を通じてあらためて感じた。作品を見る楽しみ方も、これまでとは異なってくると思う。

▶ ビジネスとアート思考、プロフェッショナルとしての思考に共通点を感じることができた。

● 実施例「NTTドコモソリューションズ株式会社」

実施日: 2025年12月18日(木) 参加者: 11名

目的・期待: アート(工芸)を通じて「0からアイデアを生み出す力」に触れ、柔らかな発想で新しいビジネスモデルを描く気づきを得る